

タングステンの4～6月相場予測 AMJ西野氏寄稿

欧米需要が好調もウクライナ情勢悪化で減速感強まる

タングステンの中間原料・APTの国際相場（パラタングステン酸アンモニウム，ヨーロッパ・アメリカ）は，21年8月に300ドル/Mtuの大台を回復した後も上昇を続け，足元では345～353ドルと，18年6月に記録した350ドルに迫っている。一方，鉄鋼原料のフェロタングステン（FeW）は21年8月に40ドル/kg Wを回復した後に調整していたが，今年に入り40ドルを再び回復し，さらに主要産地ロシアのウクライナ侵攻による供給不安から，足元では50ドルを超える。タングステンの世界需要は，主用途の超硬工具が20年年央から復調し，今後もヨーロッパやアメリカなど西側諸国を中心に堅調に推移するとの見方が大勢を占めてきた。だが，新型コロナウイルスの変異株（オミクロン株など）の感染が拡大し，自動車各社が半導体や部品などの不足で減産を実施。足元ではロシアのウクライナ侵攻が世界経済の先行き不透明感を高め，景気減速の懸念が高まる。レアメタルの専門商社・アドバンストマテリアルジャパン（AMJ）で長らくタングステンの中間原料・合金鉄・スクラップを取り扱ってきた西野元樹・本部長に4～6月の相場見通しを寄稿してもらった。

中国の精鉱価格が底堅くW相場は大きく下落せず

国際相場はAPT，フェロタングステンとも21年夏以降，大きく値を上げているが，中国内の精鉱相場が堅調であることを考えると，タングステン国際相場が大きく下落することは考えにくい。資源・エネルギー価格の高騰や世界的

な物流混乱にくわえ，ロシアのウクライナ侵攻といった不安定要素が需要・供給の両面に影響し，今年4～6月のAPT相場は，足元から調整する局面も含め，330～380ドルで推移すると予想する。

ただし，不安定要素が影響し，西側諸国のタングステン需要が落込み，中国のAPTなど中間原料のスポット需要が減った場合でも，西側市場では精鉱・スクラップのタイト感が続くと考えられる。西側諸国のユーザーは，ロシアへの経済制裁の影響から，原料の安定調達を重視する観点に立ち，自社の製錬・リサイクル設備を拡充させ，精鉱・スクラップの調達を増やす動きを強めるだろう。